

地域から学校へ

【防災の心得】

今年度は、地域と学校合同防災訓練が行われませんでした。そこで地域の防災担当の方から、大切な皆様の命を守るために防災の心得をいただきました。いざという時のためにお読みください。

1964年6月16日13時01分、マグニチュード7.5の新潟地震が発生し、今年で56年になります。2009年～2018年の10年間で震度1～7の地震は33,833回、およそ1日9回発生しています。近年は地球温暖化による海面水温の上昇で、台風が急速に強大化し、豪雨による土砂災害・破堤・洪水・浸水など甚大な被害が発生しています。また猛暑による森林火災の発生や熱中症など、自然環境は地球レベルで以前より大きく変化しています。

災害放送では「ただちに命を守る行動をしてください」と耳にしますが・・・

災害発生時、自分で自分の命を守る行動をするために下記の3つの事を心がけましょう。

1. 家庭内で家財道具の転倒・落下、屋外での落下物・倒壊物から「身体（特に頭部と頸部）を守る」
2. 水害や閉じ込めによる窒息死や火災の煙による一酸化炭素中毒から「呼吸を確保する」
3. 真夏の猛暑による熱中症や真冬の低体温から「体温を保持する」

『防災の基本は自助だということを忘れないでください！』

新型コロナウイルス感染が猛威を振るう中、最近各地では地震が頻発しています。現状の中、「警戒レベル4・全員避難！」の災害発生を仮定した時、自分の命を守り、家族を守り、感染リスクを考慮しながら適切な判断・行動が求められます。闇雲に避難所へ駆け込めば何とかなるということではありません。水害・地震等災害の状況を把握した上で自分は何をしなければならないか、家庭内で災害を想定したシミュレーションで個々の行動基準・非常持ち出し袋・備蓄の再チェックを普段から確認しておくことが大事です。また、避難所運営に当たっては、3密（密閉・密集・密接）回避の対応、運営委員会の役割分担・備蓄見直しなど地域と学校・行政との連携で一体となった最低基準の再構築が急がれます。

【MFP 活動よりマスクの贈呈】

メイクフューチャープロジェクトで作製されたマスクを、生徒からボランティアの方々へ贈りました。



いつもボランティアの皆様方からは、様々なところ、様々な場面で支えていただいております。本当にありがとうございます。当校の学校教育活動にとってボランティアの皆様の活躍と存在は欠くべからざるものになっています。これからもよろしくお願いします！！

小川校長先生

学校から地域へ